

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 オークランドホーム南原町木洩れ陽)

事業所番号	0670101674		
法人名	オークランドホーム株式会社		
事業所名	オークランドホーム南原町木洩れ陽		
所在地	山形県山形市南原町3丁目11-1		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 10 日	開設年月日	平成 16 年 8 月 20 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①慣れた生活を継続出来る様一人ひとりに合った支援をし、ご利用者様はのんびり、和気あいあい、笑顔や笑い声が聞こえる家庭的なホームです。  
 ②年間を通して、様々な行事・イベント・外出・外食等に参加する事で楽しみのある生活を送って頂ける様支援しております。  
 ③協力医の下、ターミナルケア・看取りケアまで支援させて頂いております。  
 ④デイサービスや短期利用の受け入れ態勢をとっており、ご利用者同士の交流を図っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4 年 11 月 17 日	評価結果決定日	令和 4 年 12 月 13 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広く開放感のある大きな窓で明るいきらびやかな雰囲気につつまれています。利用者はコロナ禍により様々な制限を余儀なくされ、家族ともなかなか会えずにいましたが玄関先での面会が叶い安堵しています。両側の居室を挟んだ廊下は丁度よい歩行訓練の場となっており、また気分転換を図り車中ドライブに出かけるなど皆元気に暮らしています。三食手作りの美味しい食事に満足し、職員と共に笑顔で談笑しながら日々を過ごしています。職員は理念とケア目標の達成に向けて、毎月全職員で学習会を実施し木洩れ陽全体のスキルアップを目指し、また運営推進会議の場を活用して地域との連携が深まるよう取組んでいる事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は見やすい場所に掲示し、意識しながら日々の生活を支援している。 ・朝の申し送りや定期学習会の時、職員全員で、理念を唱和し、意義を理解して実践につなげている。	事業所理念とケア目標3つ(その人らしく、せいかつリズム、いい笑顔・コミュニケーション)を掲げ、毎朝申し送り事項を確認して業務日誌に記録したのち全員で唱和している。理念とケア目標を念頭に置いて利用者との一日をスタートさせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・開設以来、継続していた町内の行事への参加は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、日常的に交流が出来なくなっている。	コロナ禍で地域行事などが中止となっており交流ができず、利用者の認知症が進まないかと職員は心配し、少しでも気分転換になるよう、同法人のグループホームと交流を図っている。感染状況に配慮しながらネイルサロンのボランティア訪問に利用者は喜んでい	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・利用者様との、買い物や散歩、外食する機会を通して、近隣、地域の中で理解して頂くよう努めている。 ・運営推進会議で委員の方々からの意見を頂き業務に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・新型コロナウイルス感染予防の為、話し合いは年度末だけで、あとは、紙面で報告をしている。委員の自宅に報告書を届けた時に、状況を報告後、意見や要望をお聞きし、サービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ禍により対面での開催が難しく、書面で実施し、家族代表、包括支援センター、地域住民代表、民生委員それぞれに、活動報告書と運営推進会議開催報告書を持参して理解を得ている。情報や意見・要望を貰えるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・新型コロナウイルス感染拡大の為、介護相談員や他の訪問活動は休止しております。	2ヶ月に一回介護相談員の訪問があり利用者も楽しみにしていたが、コロナ禍により現在は中止となっている。市とは運営推進会議報告書を持参した折、様子を伝え理解を得ている。また市から様々な情報が送られてきており共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	・身体拘束は行わない方針で全員が取り組んでいる。玄関に「身体拘束排除宣言」を表示してある。 ・外に出ない事を目的とした施錠も一切行っていない。 ・身体拘束について職員は理解し言葉遣いに気を付けながら、一人ひとりの気分や状態をキャッチし、尊敬の気持ちを大切に支援している。	身体拘束排除宣言を掲げ、同法人のグループホームと一緒に身体拘束委員会を作り、毎月の学習会で職員は拘束をしないケアについて学び、利用者の尊厳を大事に関わっている。玄関は常に開錠しており離設者は出していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	・学習会で学び合う機会を取り入れている。 ・傷、あざを見つけたら、お互い気付いた時に、申し送り等で、話し合い原因究明・予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・今後、徐々に活用する方が多くなっていく制度なので、研修会等に参加し、内容を理解し対応出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時や解約又は改定時には時間を取り詳しく説明し、同意を得る様に努めている。理解、納得できない時は、何度でも説明し不安・疑問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時に家族の意見や要望を引き出す努力をし、些細な事にも十分気をつけるようにしている。 ・フロアに意見箱を設置している。	コロナ禍により家族等と直接話をする機会が持てずにいるが、担当職員が近況を記載した便りや写真と広報紙を郵送し状況報告を行っている。感染状況をみて玄関先での面会が実施でき利用者・家族双方の安心に繋がっている。その折に意見や要望を聞いている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の意見や提案を出しやすい職場作りをし、できる限りの意見を実現出来るよう心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員がやりがいを持ち、仕事出来るように、職場環境、条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・学びの場として内部研修は定期化し、認知症に対する理解を深めている。	学習会係が年間計画を立てて毎月全職員対象に研修を実施している。身体拘束については何が拘束にあたるか、弊害はなど様々な視点にたった研修内容となっている。また認知症に対する理解を深めるための研修にも力を入れて取り組んでいる。管理者・ホーム長による職員の個人面談を実施し資格取得等の意欲がみられている。	全ての職員は同様に介護技術の向上や認知症の理解が深まるよう更なる研修に期待したい。
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外部との交流は控えている。 ・今年、初めて看護学校からの実習生を受け入れている。	コロナ禍により他事業所との交流が進まず、リモート等はネット環境がまだ整っていない。法人内事業所とは互いに行き来して交流を図っている。また看護学生の実習を受け入れることができ、利用者は関わりを持って喜んでている。	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・職員一同、きめ細かい配慮に努め本人の思いや家族の要望、不安を受け止め信頼関係作りに努め、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の困っている事や不安、要望を聞きながら、家族の思いを受け止め、今までの対応や介護に労いの言葉をかける。 ・本音で話せる関りを持てるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の思い、希望を聞き同じ視点に立つことで、支援出来る事を見極めている。 ・早急な対応が必要と思われる時は、医療連携を取ったり、他サービス利用も検討しながら支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・人生の先輩であることを共有しており、時には叱られたり、助けってもらったりしながら共に生活している。 ・職員の年齢が一般家庭の構成のように娘、息子、孫的でアットホームで色々な会話ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の思いに寄り添いながら、本人の思いをご家族に上手く伝えられるよう努力している。 ・面会時には、ご本人、ご家族がゆっくりできるように配慮している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、面会時には、ご利用者様の様子を伝えたり、木洩れ陽便りを見せたり、写真を撮るなど、ご本人とご家族への思いが途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日々の生活のなかで、一人ひとりの体調などの変化を見逃さずに利用者様同士の関わりが出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所されても、電話やメールで連絡をとり、これまでの関係を大切にしている。 ・遊びに来て頂けるよう継続的な付き合いを心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中で、一人ひとりの話に耳を傾けている。 ・職員は常に笑顔を忘れずにご利用者様との関わりを大切にしている。	職員は日々の業務に追われるなかでも、お茶の時間を利用して一人ひとりの話に耳を傾け思いの把握に努めている。自分から言葉にすることが出来ない利用者もおり、職員は笑顔で話しかけ思いを引き出している。また担当職員が家族等と連絡を取り、ホームでの様子や希望していることを伝え信頼関係を築いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご利用者様の情報を職員が共有し日々の中にて活用していく努力をしている。 ・プライバシーに配慮しながらご家族からの状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりのリズムを大事にし、小さい事でも残存機能を見つけ出し、維持出来るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の介護記録などを参考にしたり、ご本人ご家族の希望・要望を聞き介護計画に取り入れている。</li> </ul>	<p>利用者本人の意向を大切に現状を見極め、今持っている機能を維持して行けるよう家族の同意を得ながら計画に反映している。変化がなくても半年ごとにモニタリング(観察)をし、ケア会議に繋いでいる。急な変化時は管理者が状況を説明し見直し対応している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別ファイルを活用し言動を記録している。</li> <li>話し合いや申し送り、ケアプランの見直しに活かしている。</li> </ul>		
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進委員、民生委員、町内の役員、消防等から、協力を得られるように日頃から挨拶をして、顔馴染みになり、利用者様が地域の中で安心して暮らしを続けられるよう配慮している。</li> </ul>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月2回訪問診療の往診を受け又、家族同行で本人のかかりつけ医の受診等、適切な医療が受けられるようになっている。</li> </ul>	<p>協力医による定期的な往診と他の診療科目を含めて必要な医療が受けられるように受診支援を行い、利用者・家族等が医療面で不安なく過ごせるよう取り組んでいる。状況によって家族側に同行を依頼する場合もあり、受診結果は共有し適切に対応している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常勤看護師が週2回勤務しており、勤務時及び随時連携が図れている。又、必要に応じて訪問診療クリニックに指示を仰ぎ往診等、適切な医療が受けられる様、全職員が協力し合っている。</li> </ul>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院時には本人の状況、情報を的確に伝え、医療がスムーズに行えるようにしている。家族の方にも説明、協力してもらいながら医療関係に繋げている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人、家族の意向を踏まえ、出来る内容を説明職員全員で取り組む体制を取っている。</li> <li>契約の際には、木洩れ陽でできる内容(重度化看取りに関する指針)を説明している。</li> <li>ご家族との話し合いで場合により訪問看護師の必要性を理解してもらいチーム医療作りに努めている。</li> </ul>	主治医との連絡体制を確保し、関係者を含めて看護師と職員の連携のもとに看取りを行っている。本人・家族等の意向を踏まえ尊厳を第一義として体制を整え、安心と納得した最期を迎えられるように努めている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>マニュアルを作成している。学習会で急変や応急手当の仕方当を学んでいる。</li> <li>一人ひとり不安な部分は再確認し努力している。</li> </ul>			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の避難訓練を行っている。避難訓練では、初期消火訓練、通報訓練夜間想定や地震、災害訓練も実施。消防隊員からアドバイスを受けている。</li> <li>定期的に防災用品、備蓄等の点検、見直しを行っている。</li> </ul>	訓練計画に基づいて、災害発生時の初期対応と利用者をスムーズに避難させることが出来るように安全確保を主眼にした訓練を実施している。地域からの協力を必要とし、運営推進会議等で地区長や民生委員などに働きかけていく努力をしている。	災害対応の限界を具体的に確認し、地域に事業所の災害対策に関して理解を求め、災害発生時の協力体制を早急に築かれることが望まれる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの誇りを尊重し、利用者の気持ちに沿った言葉遣いをし、家庭的で親しみのある暮らしを心掛けている。</li> </ul>	利用者一人ひとりが歩んできた人生や思いを尊重し、人生の先輩として敬いきめ細かい配慮で支援している。誇りやプライバシーを損ねないように常日頃から確認と改善に向けて取り組んでいる。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員側で決めて事を押し付けず選択できる雰囲気作りを心掛けている。</li> </ul>			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの体調や生活習慣に配慮し、利用者のペースに合わせてゆっくり個別に関わるよう努力している。</li> </ul>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別で支援している。</li> <li>・日々、身だしなみやおしゃれに気を配っている。</li> </ul>	/	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の物、好物、行事食、外食を楽しめている。</li> <li>・利用者の出来る事。(一緒に買い物、野菜の下ごしらえ、盛り付け、片付け)役割が行えるように支援している。</li> </ul>	食卓に笑顔を届けられるように、食材を購入し三食手作りで提供して好評を得ている。食事が楽しく喜びに繋がるように声かけや場面づくりを工夫し、調理する音や匂いが刺激を与えている。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスに注意しながら食べる量や水分をしっかり摂取して頂いている。</li> <li>・減塩を心掛けている。</li> <li>・月1回の体重測定。食事の摂取状況を毎日(3回)チェック表に記入している。</li> </ul>	/	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後の口腔ケアは習慣化している。</li> <li>・洗口液の利用で、汚れ、臭いのない状態になっている。</li> <li>・訪問歯科と提携して週1回の往診を取り入れている。(希望者のみの治療、口腔ケア)</li> </ul>	/	
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し時間を見て声かけ、誘導し、トイレでの排泄を支援している。</li> <li>・失敗した時には、トイレ内に個別に用意している排泄用品を使用する事で、目立つことなく素早い対応を心掛けている。(羞恥心に配慮している。)</li> </ul>	一人ひとりの習慣やパターンに応じた排泄支援を行い、自力で排泄ができる方には声かけを工夫したり、介助を必要とする方には状況を見ながら適切に対応している。失敗しても声かけや言葉に注意して自尊心を損なわないようにさりげない介助をしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会でも、話し合い、排便チェック表を活用して日々の業務に繋げている。</li> <li>・食物繊維の多い食材や乳製品を取り入れ、水分量に配慮し、体を動かす努力をしている。</li> </ul>	/	
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴日は決めず、体調に合わせて本人の希望を聞きながら支援している。</li> <li>・職員2人介助の時もあり、転倒防止に細心の注意を払い、入浴出来る支援している。</li> </ul>	それぞれの習慣や希望に合わせて柔軟に対応し、利用者はその日の気分によって入浴剤を変えたりして楽しんでいる。羞恥心などへ配慮しながらゆっくりくつろいでもらえるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの体調や表情、希望を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬は調剤薬局が一包化して2週間に一度、持参し一人ひとりの箱に収めている。 ・薬の名前、効能は薬剤情報提供書を見て学び、服薬による変化を見逃さないように努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて支援している。 ・利用者が出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍ではあるが、感染対策をして本人の気分や希望に応じて(散歩、買い物、外出、ドライブ等)外出支援に努めている。 ・歩行困難でも車椅子を利用して外に出掛ける支援を心掛けている。	天気を見ながら利用者の希望に応じて柔軟に対応し、コロナ禍の中でなるべくほかの人と接触しないように注意して感染防止に努めて出かけている。季節やその時々状況に応じて少しでも利用者に喜んでもらえるよう工夫している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者全員お金は所持せず、家族が管理している。 ・必要に応じてホームの立替金で本人の欲しい物を買える様支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠方の家族から電話があった時は取り次ぎ、話が出来る様に支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな窓から差し込む光、四季折々の風景など季節の変化を感じることができ、一人ひとりが居心地の良い場、安心感のある場所になるよう配置を工夫している。</li> <li>フロアと台所が一体化しているので料理する匂いや食器洗う音で、五感の刺激に役立っていると思われる。</li> </ul>	建物全体が白を基調としており、内部も華美な装飾を控えて居心地よく整えられており、胡蝶蘭や観葉植物を置いて利用者は心を和ませている。広いホールで窓越しに見える景色に季節を感じながら心地よくゆったりと過ごしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有のソファがあり、自分の居心地の良い場所で利用者同士笑顔で談笑したり、歌をうたったり、テレビを観たりとくつろぎ・ゆったり・のんびり過ごせるように支援している。</li> </ul>			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者・家族からの話を聞き希望に沿った部屋作り(ベッド・家具の配置)をして、居心地よく過ごせるよう配慮している。</li> </ul>	人形やぬいぐるみ・鏡など使い慣れたものを傍に置いて思い思いに設え、温かい雰囲気になっている。動線を考慮して転倒防止を図り、毎日清掃して綺麗な中で気分良く過ごしてもらえるよう配慮している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が利用者一人ひとりの出来る事、わかる事を把握し安全を確認して、自立した生活を送れるように支援している。</li> </ul>			